Binalong Cottage Kindergarten　訪問

こみね幼稚園　統括主任　大森　舞

１　はじめに

私立学校教員海外研修団は、2024 年 9 月 9 日、視察先でニューサウスウェールズ州にある Binalong Cottage Kindergarten（以下、ビナロング幼稚園）を訪問した。オーストラリアの幼稚園としては中規模の園で、穏やかなビナロング地域の居住地の中にある一軒家を改築した園舎である。園長先生は日本のご出身で日本との違いを細かくご教授いただく貴重な機会となった。

２　幼稚園概要

2009 年創立、ビナロング幼稚園は、全園児数 39 名でオーストラリアでは中規模の幼稚園にあたる。多文化民族国家として歴史の長い国だが、ビナロング幼稚園では現在インド系の子どもが多く在園しているようだ。オーストラリアには Early Years Learning Framework という枠組みがあり、5 歳までの子どもの学びや小学校入学への準備に関する原理・原則を示している。日本でいう年長児の年齢にあたる子どもたちは小学校入学準備の為「プレップ」と呼ばれる小学校内にあるクラスで過ごすため、視察した園には 0 歳から 5 歳までの子どもたちが通っており、3 歳から 6 歳までが通う日本の幼稚園とは雰囲気も大きく異なっていた。

３　教育環境

園舎は一軒家を改築した作りで、１階が園児たちの過ごすスペースになっている。０−２歳エリア、３−５歳エリアと分かれており、子ども 4 人に対してスタッフ 1 人が保育を担当している。日本の基準と違い、1 人に対するスペースを広く確保する決まりがある為、園内は広く感じられた。36 ヶ月までの子どもに対応し、ベビーベットが用意されており、年齢に合わせた遊具や環境設定が行われている。１日のカリキュラムは、年齢で２つのグループに分かれ、室内で活動する時間と外遊び（午前と午後）を交代で行なっている。視察の際は０−２歳児は園庭の砂場に多く集まり、保育者とともに砂遊びや三輪車を楽しんでいた。３−５歳児はアボリジニの楽器に親しんだり、みんなで歌やダンスを楽しんでいた。保育の様子を見ていると、「遊びを中心とした学び」が重要視されていて、子どもが自分で考えて答えられるような問いかけを保育者は行なっており、皆が自信を持って答えていた。日本でも昨今アクティブラーニングが注視されるようになったが、幼い頃から自分の意見を伝え、気持ちを表現することが習慣となっているこ

とが伺える。その時々子どもたちの興味の対象を深めるカリキュラムを取り入れることも大切にしているようだ。例えば、ごっこ遊びでクッキングをしていたら、実際にみんなで料理をするなど子どもの興味や疑問を取り上げリアルに体験する機会を作っている。

集まりの様子

自由遊び

園庭

0-2 歳エリアのベッド

また、園内には２箇所のキッチンがあり、調理師免許保有のシェフが Breakfast（朝ご飯） Morning tea（モーニングティー） Lunch（お昼ご飯） Afternoon tea（アフタヌーンティー） Dinner（夕食）を提供。園児は登園時間が一斉ではない為、それぞれの家庭によって提供する内容が変わる。

４　オーストラリアの幼児教育に関する規約と園の取り組み

オーストラリアは人口の約 1/4 が海外からの移民である多民族国家で、様々な言語や文化を持つ子どもたちが幼稚園に通っている。200 以上の民族が混じり合い混成している為に、それぞれの慣習はまちまちで、指針や要領によって教育を一本化しておく必要がある。それ故に規則が厳密に具体的に記載されて遵守されるシステムになっているのだ。「日本のように常識的に考えてやりましょう、はオーストラリアでは成り立たないのです。」と園長の小林先生は語っている。

以下のような法規制された Regulation が作成されて園の運営の柱におくように通達されている

（１） Children's Services Amendment Regulation 2010（園運営のための具体的な設備内容の規則）

https://legislation.nsw.gov.au/view/pdf/asmade/sl-2010-697

（２） Quality Improvement Plan template（保育内容クオリティ改善法規制）

https://www.preschools.sa.gov.au/kangaroo-island-cs-kingscote/our-centre/reports-and-plans/kangaroo_island_cs_qip_kingscote_cbc.pdf

特に重要視されているものが[７つのクオリティエリア]である。

1:教育プログラムとその実践　2:子どもの健康と安全　3:身体的環境　4:職員配置基準　5:子どもとの関係　6:家族と地域社会との連携　7:リーダーシップとマネジメント　という 7 領域で構成されていて、さらにその中で細分化されている。日本ではこのように厳しい規則はないが、オーストラリアでは徹底してその決まりごとが実際に実行されているかを査察官の定期・抜き打ちで監視され査察される。実行されていない場合は罰金・閉園となる場合もある。すべて、子どもの安全、有益を損なっていないか？の観点に立っての立案である。各施設は質の改善計画と自己 評価を行い、外部評価者による観察、保育者との議論、関連書類の閲覧を総合して、評価の決定がなされる。評価レベルは 5 段階で、評価の結果は各施設での掲示が義務付けられている。また、政府に毎日の記録を提出する義務があり、保護者にもその日の保育内容や子どもの様子をわかるよう写真がメインの報告書を作成し、メールで連絡している。個人記録、観察記録は毎月保護者に送るようになっていて家庭との連携を充実させ信頼関係を深めている。

５　おわりに

訪問したビナロング幼稚園はゆとりのある環境で、園舎内の活動も園庭での自由遊びも穏やかでのびのび楽しむ子どもたちの姿が印象的であった。

子どもたちは日本の歌も知っていて「サイタソング（チューリップ）」「イートーマキマキ（いとまきの歌）」「きらきら星」の 3 曲をピアノ伴奏させていただき、自身にとっては貴重な経験をさせていただけたことも良い思い出である。

オーストラリアは ICT 教育先進国と言われるが、幼児にスクリーン画面に慣れて欲しくないという園の方針があるため保育の中に iPad やタブレットは取り入れていないようだ。日頃の子どもの様子から気持ちや興味を汲み取り、カリキュラムに取り入れることが子どもたちにとって良い刺激となり、また、細やかな規定があることで安心して生活を送れる場なのだと感じられた。

集合写真

参考：　幼稚園 HP　https://emiai2428.wixsite.com/binalongcottage